

花の不思議

- 描かれた花、描かれないイメージ -

県立広島大学
ひろしま美術館
連携公開講座

日時

平成21年11月21日・28日・12月5日(土)
13:20~15:50

会場

県立広島大学 広島キャンパス (広島市南区宇品東1-1-71)

11月21日 (土)	13:20~14:30	花の色はどのように生まれてきたか	県立広島大学生命環境学部教授 入船 浩平
	14:40~15:50	ルネサンスの花	ひろしま美術館学芸員 水木 祥子
11月28日 (土)	13:20~14:30	花を通して心を伝える	県立広島大学人間文化学部教授 天野 みゆき
	14:40~15:50	ゴッホの花	ひろしま美術館主任学芸員 古谷 可由
12月5日 (土)	13:20~14:30	願わくば花のもとにて 王朝文学と桜	県立広島大学人間文化学部教授 西本 寮子
	14:40~15:50	近代における花の絵の諸相	ひろしま美術館主任学芸員 渡辺 純子

募集対象

どなたでも 100名程度

受講料

無料

申し込み

往復はがきの往信面の表に 名前、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、返信面の表に受講者の名前()様と住所をご記入の上、平成21年11月6日(金)(消印有効)までに次の宛先に郵送してください。受講案内は返信はがきで11月中旬にお送りします。

問い合わせ

〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71
県立広島大学地域連携センター「花講座」係
電話 082-251-9534

主催

県立広島大学地域連携センター 財団法人ひろしま美術館

申し込みにあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座以外の目的には使用しません。

「花の不思議 - 描かれた花、描かれないイメージ」概要

入船浩平「花の色はどのようにして生まれてきたか」

花の色はどのようにして私たちの目に映るのでしょうか？植物が花びらに色づけをした理由を植物の起源や進化から探ってみます。また、色の特徴や色づく仕組み、花色が人の目に映る仕組みについて、さらに、最近の青いバラにみられる先端科学の遺伝子工学分野の研究例もまじえながらく平易な科学の言葉で理系の立場から紹介します。

水木祥子「ルネサンスの花」

ルネサンス期に描かれた主な絵画のジャンルは宗教画と神話画でした。日本人にとってあまり親しみのないそれらの絵画の内容を知るためには、西洋の慣習にそって読み解いていかなければなりません。なかでも花のモチーフは、聖人たちや神々、あるいは絵画の主題を特定するためのヒントを与えてくれる重要な役割を担っています。よく登場する白百合や薔薇を中心に紹介します。

天野みゆき「花を通して心を伝える」

作家や画家たちは、様々な花のもつ伝統的な象徴性を用いつつ、新たな意味の創造を試みます。シェイクスピアの『ハムレット』において、オフィーリアは自ら編んだ花環を柳の枝にかけようとして小川に落ち、溺死します。この場面は19世紀に、J. E. ミレイを始めとする複数のラファエル前派の画家により絵画化され、ミレイの作品は夏目漱石にもインスピレーションを与えました。イギリスの文学と絵画に描かれた花にこめられた想いを考えます。

古谷可由「ゴッホの花」

ゴッホの花といえば「ひまわり」を思い浮かべる方が多いことでしょう。「ひまわりの画家ゴッホ」というイメージさえ出来上がっています。しかしその一方で、ゴッホは、「アイリス」や「アーモンドの花」「薔薇の花」などさまざまな花を描いています。このゴッホの花には、どんな「意味」が込められたのか、込められなかったのか。西洋美術史の伝統の中で、ゴッホの花のもつ「意味」について考えます。

西本寮子「願わくば花のもとにて - 王朝文学と桜 - 」

絵巻の時代から、日本絵画には多くの桜が描かれてきました。日本の古典文学では「花」といえば「桜」が連想されますが、遠景の桜、満開の桜、散る桜、とそのイメージは一様ではありません。描かれた「桜」から説きおこし、王朝文学の世界に焦点を当てて、言葉の世界で紡がれてきた桜のイメージを紹介します。

渡辺純子「近代における花の絵の諸相」

近代においても花は多くの画家によって描かれてきました。クールベ、マネ、ルノワール、セザンヌ、モンドリアン、そしてルドンら、幾人かの名前がすぐに浮かんできます。近代絵画の特質のひとつに、絵画の中から物語性や意味を排除したことがあげられますが、では画家たちは花々に何を託したのでしょうか。近代絵画における花の絵を見ながら、探っていきたいと思います。

